

韓国環境部プレスリリース 2020年2月21日付

京畿道と江原道の野生いのししか ASF ウイルス検出（野生いのしし 238-244 例目）

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1330045&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

□環境部所属国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は、2月18日京畿道(キョンギド)坡州市(パジュシ)津東面(チンドンミョン)、2月20日京畿道(キョンギド)漣川郡(ヨンチョンゴン)百鶴面(ペッカシミョン)および旺澄面(ワンジンミョン)、江原道(カンウォンド)華川郡(ファチョンゴン)上西面(サンソミョン)および華川邑(ファチョンウプ)で発見された野生いのししの死体7個体からASFウイルスが検出されたと2月21日明らかにした。

□国立環境科学院は2月21日死体7個体からASFウイルスを検出したことを関係機関に通知した。これで坡州市(パジュシ)65件、漣川郡(ヨンチョンゴン)73件、華川郡(ファチョンゴン)84件の野生いのししのASF陽性事例となり、全国では244件になった。

○野生いのししASF標準行動指針により試料採取後現場消毒と共に死体を処理した。

□国立環境科学院は「今回発見された死体は全て広域フェンス内の既存感染地域で発見され、この地域では感染死体がさらに出てくる可能性が高く、搜索を強化して死体を速かに除去する計画だ」と明らかにした。

以上